

氏名	能島大輔
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第5267号
学位授与の日付	平成28年 3月25日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Pilot Analysis of Asbestos-induced Diffuse Pleural Thickening with Respiratory Compromise (呼吸機能障害を伴う石綿ばく露によるびまん性胸膜肥厚の試験的解析)
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

論文審査委員	教授 三好 新一郎 教授 荻野 景規 教授 柳井 広之
--------	-----------------------------

学位論文内容の要旨

我々は、著しい呼吸機能障害を伴う石綿ばく露によるびまん性胸膜肥厚（DPT）の臨床的特徴を調査した。石綿により引き起こされたDPTの一連の対象を後ろ向きに検討した。初期症状、放射線学的所見、呼吸機能検査の結果、臨床経過といった医療情報を収集し解析した。2003年から2012年までに24人の患者がいた。全て男性で、DPT発症年齢の中央値は74歳であった。石綿ばく露の職歴で最も多かったのは造船工であった。石綿ばく露期間の中央値は35.0年で、石綿初回暴露からDPT発症までの潜伏期の中央値は49.0年であった。ブリンクマン係数の高低、DPTが片側か両側かで呼吸機能検査の結果に有意差を認めなかった。13人で良性石綿胸水（BAPE）の既往があり、胸水貯留から著しい呼吸機能障害を伴うDPT発症までの中央値は28.4ヶ月であった。著しい呼吸機能障害を伴うDPTは、職業性の石綿ばく露に続く永い潜伏期とBAPEの既往の後に発症しうる。

論文審査結果の要旨

本研究は著しい呼吸機能障害を伴う石綿暴露によるびまん性胸膜肥厚（DPT）の臨床的特徴を後方視的に検討したものである。本研究者は呼吸機能障害として労災補償認定基準を採用し2003年から2012年までの24例を対象として解析した。その結果、DPT発症年齢の中央値は74歳、石綿ばく露の職歴で最も多かったのは造船工、石綿ばく露期間の中央値は35年、石綿初回ばく露からDPT発症までの潜伏期間の中央値は49年であった。ブリンクマン係数の高低、DPTが片側か両側かで呼吸機能検査の結果に有意差を認めなかった。13人で良性石綿胸水（BAPE）の既往があり、胸水貯留から著しい呼吸機能障害を伴うDPT発症までの中央値は28.4ヶ月であった。以上より本研究者は著しい呼吸機能障害を伴うDPTは職業性の石綿ばく露に続く永い潜伏期とBAPEの既往の後に発症しうることを明らかにした。DPTの臨床的特徴について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。